

「頼っていい」が 力になる
自分らしくいられる “第3の居場所”

そにとキャンプ

学校や集団生活で「困り感」を感じているあなたと そのご家族へ
そにとキャンプは、夏・秋・冬の年3回、同じ仲間と生活を共にする継続型キャンプです。
登山や野外炊事などの自然体験や、仲間との共同生活といった互いに支え合う体験が、
今まで気づかなかった子どもの新たな一面を引き出します。時間をかけて「頼り・頼られる」
関係性を育みながら、安心できる居場所を共に創り上げましょう。

出会のキャンプ
7月11日(土)
～7月12日(日)

冒険のキャンプ
9月19日(土)
～9月21日(月・祝)

旅立ちのキャンプ
11月28日(土)
～11月29日(日)

対象 発達に特性のある児童生徒や不登校傾向など、集団(学校)や社会生活に困り感のある小学校4年生～中学校2年生の児童・生徒とその保護者
またお子様につきましては、身辺自立(自力でトイレ・着替え・食事等)が、ある程度できていること。(不安な点等がございましたらご相談ください)

応募 専用申込フォーム(リンク:右の二次元コード)より
6月22日(月)12時までにご応募ください。

会場 国立曽爾青少年自然の家 および その周辺地域

定員 児童・生徒 12名 ※応募者多数の場合は、抽選。保護者、きょうだい児の人数は不問

費用 子どもプログラム:全3回 計18,000円(施設使用料、食費、材料費、体験料、保険等)
保護者プログラム:全2回 計17,000円(施設使用料、食費、材料費、体験料、保険等)
きょうだい児プログラム:全2回 計 7,000円(施設使用料、食費、材料費、体験料、保険等)※幼児の場合



開催要項



申込フォーム

～心に染みこむ育自時間～
そに・木漏れ日リトリート



保護者
プログラム



野外炊事・焚き火
森林浴・クラフト体験など



仲間と専門家と一緒に考える“共育”
そにとキャンプOB保護者・発達心理学
就学キャリア支援・インクルーシブ教育

ドキュメンタリー映画「みんなの学校」の舞台となった
大阪市立大空小学校 初代校長

木村泰子先生

講演会

11月29日

9:00～12:00(予定)



※本講演は公開講座として、事業参加者以外も公聴いただけます。
※公開講座参加希望の方は、自然の家ホームページから開催要項をご確認ください。

「そにっとキャンプ」事業理念

【「頼っていい」が、未来をひらく力になる。】

私たちは、特性や集団生活に困り感を抱える子どもと家族の「第3の居場所」であり続けます。一人で抱え込まず、周囲を信頼し、助けを求める勇気が、自分らしく生きるための揺るぎない土台になると信じています。

【大切にしている3つの柱】

安心

不安な気持ち、やりたくない気持ちも、ありのままを認め合う環境を整えます。安心できる場所があるからこそ、次の挑戦への一歩が生まれます。

共感

想いを言葉にし、分かち合う時間を大切にします。真の共感とは他者への関心を育て、心が前向きになっていく原動力となります。

頼ること

「助けて」と言うことは、自立に向けた大切な力です。子どもも大人も弱音を吐き、「困った」を見せ合い、互いに補い合える関係を築きます。

【成長の軌跡】

年3回の継続した関わりをとおして、段階的に自己肯定感を育みます。

【保護者の皆様へ】

- ・「ねばならぬ」から、「そうありがたい」へ。
- ・お子様が活動する間、日常の役割から離れ、『ウェルビーイング』を大切に時間を提供。
- ・参加者間の対話を通じ、真の共感を得て、一人で頑張る『孤育て』から、社会とつながる『共育』へ。

各キャンプについて（子どもプログラム）



出会うのキャンプ

あそぼう・なれよう・たよってね

曾爾の雄大な自然の中で、まずは新しい環境や人に慣れることから始めよう。

遊んだり、休んだり、心と体をゆるめて、自分らしくいられる場所を見つける第一歩です。

野外炊事と川遊びをするよ。初めての事も、ボランティアスタッフが「困った」を一緒に考えてくれるから頼ってね。

冒険のキャンプ

“助けて”が挑戦の力になる

一日かけて歩くロングハイクに挑みます。ただ完歩を目指すだけでなく、「しんどい」と本音を伝えたり、リタイアを選ぶことも自分と向き合う大切な挑戦です。仲間に「迷惑をかけてもいい」安心感の中で弱音を吐き、支え合う喜びを感じることで、本当の意味での「頼る力」が育ちます。登山の他にも、野外炊事や、スプーンづくりなども行います。

旅立ちのキャンプ

自分たちで創り上げる

半年間の集大成。自分たちでやりたいことを出し合い、どう過ごすか相談し、そのようにやってみる。自他の良さも苦手も認めて合い、“自分の意見を聞いてもらえる”という安心感の上で、仲間と協力してキャンプを創り上げます。これまでのあゆみに向き合う2日間。自分や仲間の成長を実感しながら、新しい自分に出会って次の1歩を踏み出す、特別な「旅立ち」のキャンプです。

参加者へのサポート体制

研修を受けた職員および

ボランティアスタッフが対応



職員 まっすー

安心して頼れる場所があります

困ったときは一人で抱えず、周りを頼ってください。スタッフがそれぞれのペースに寄り添いながらサポートします。



ボラ まよ

ひとりじゃないよ！

不安なことでもやってみて、「できた！」と喜ぶ姿を見ると、私も自分事のようにうれしくなります。君らしい“楽しい”や“やってみよう”と一緒に見つけよう！



ボラ ゆきち

「できない」も大切

苦手なことがあるからこそ見える、君らしさ。大切にしたいな。安心して挑戦できるように、一緒にやってみよう。

きょうだい児向け（対象：4歳児以上）

の託児プログラム

そに・のびのびフォレスト

～こころが深呼吸する、じぶん時間～

保護者が講義や体験など自分のことに集中できるよう、きょうだい児向け体験プログラムをご用意しました。森の中で、薪割りから始める焚火や探検をして遊びます。野外での調理体験も！

また、クラフト体験では、森に関係した工作をするよ。どんなものを作るかはお楽しみ。

※具体的な内容はきょうだい児の人数や年齢が分かってから計画します。

森遊び・クラフト体験（予定）



保護者の声

真の共感／集中できる環境

なかなか自分と似たような境遇の人が身近にいない中で、自分の話に共感してもらえたり、他の人の話を聞いたりする事で、“自分だけではない”と思えたのはとても心強かったです。先輩保護者の話は、今後わが子の進路を考える上でも、とても参考になりました。

また、下の子が動くのが好きなため、講義の際に「まだ～？」「ひま～」となってしまうがち。でもきょうだい児プログラムのおかげで講義やワークに集中する事ができました。下の子の預け先も無かったので、本当に助かりました。（Y・Yさん）

多様な考えで幅が広がる／頼れる存在

他の保護者との座談会では、今まで自分が普段考えないようないろいろな考え方を聞いた。今後の自分の子どもへの対応の幅が広がった。また、ボランティアのみなさんが子ども一人ひとりをよく見てくれていて、キャンプの最後に活動の様子など細かく教えてくれた。子どもも家に帰ってからボランティアのお姉さんお兄さんのことをよく話していたので、親にとっても子どもにとっても“頼れる存在”だと感じた。

（S・Yさん）